

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 21 陣の記録 日本語コミュニケーション・日本文化交流 対象国：インドネシア

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシア・パプア州から高校生及び引率者 15 名が 2019 年 2 月 5 日～2 月 13 日の日程で来日し、「日本語コミュニケーション・日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、東京都内での講義を聴講後、北海道を訪問し、文化体験や地域住民及び同世代の学生との交流を行いました。また、滝川市においてホームステイを含む日本文化を体験しました。一行は、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、日本人との友好の絆を築き、また、各々の関心事項や体験、日本の魅力について SNS を通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 インドネシア 15 名

【訪問地】 東京都、北海道

2. 日程

- 2月5日（火） 来日、【オリエンテーション】、【文化視察】皇居
- 2月6日（水） 【視察】文京シビックセンター、展望ラウンジ
【日本理解講義の聴講】講師：拓殖大学 国際学部長 佐原 隆幸 氏
【最先端技術視察】日本科学未来館
- 2月7日（木） 東京都から北海道へ移動、【文化視察】札幌雪祭り
- 2月8日（金） 【学校交流】北海道滝川高等学校、【地域概要の聴講】滝川市
【文化体験】風車作成、【ホームステイ】滝川市
- 2月9日（土） 【ホームステイ】
- 2月10日（日） 【ホームステイ】、【地域住民・関係者との歓送会】
【ワークショップ（報告会準備）】
- 2月11日（月） 地域産業の視察】サケのふるさと千歳水族館
北海道から東京都へ移動
- 2月12日（火） 【成果報告会】、【文化視察】浅草寺、深川江戸資料館
- 2月13日（水） 帰国

3. プログラム記録写真

	
2月5日【文化視察】皇居	2月6日【日本理解講義の聴講】
	
2月7日【文化視察】さっぽろ雪まつり	2月8日【学校交流】北海道滝川高校
	
2月8日【地域概要の聴講】滝川市	2月8日【文化体験】風車作成
	
2月10日 【地域住民・関係者との歓送会】	2月11日【地域産業の視察】 サケのふるさと水族館

4．参加者の感想（抜粋）

インドネシア高校生

拓殖大学での日本理解講義は日本とインドネシアに関するクイズで始まり、大変楽しむことができました。北海道の滝川高校での交流も非常に良かったです。学校では、日本の高校生はどのようなものであるかを実際に見ることができ、自分たちも日本の高校生になったような気分を味わうことができました。先生も大変素晴らしく、学生の興味を引くように面白く授業をされていたのが印象的でした。校内で、生徒たちが制作した色々な展示物等も見ることができ、日本の高校生は格好いいと思いました。滝川市役所の視察では、滝川市がいかに地元の人々、特にお年寄りに配慮しているかを知ることができました。エレベーターの中にお年寄り等のために椅子が備えてあったり、その他にも地元の人々が安心して生活できるように、色々と素晴らしいことが行われていることが分かりとても印象的でした。ホームステイでは、ホストファミリーの方々が私達に大変良くして下さり、ゲームをしたり、歌を唄ったり、一緒に過ごすことができてとても良かったです。帰国したら、ホストファミリーが恋しくなると思います。

インドネシア高校生

日本理解講義では、日本とインドネシアの協力関係につき沢山のことを学ぶことができました。そして、日本とはどのような国であるのかを具体的に知ることができました。滝川高校での交流では、日本の学校ではどのように授業が行われているかを実際に見ることができて良かったです。最も印象的だったのは、日本の高校生達の学習の仕方は、インドネシアの高校生と少し違っていると分かった点です。さらに書道体験では、漢字の書き方を学ぶことができ、本当に素晴らしい経験となりました。このような経験から、将来、日本で勉強したいと強く願うようになりました。滝川市役所では、市役所の地元住民に対する行政を直接見ることができ、非常に印象的でした。滝川市長と握手することができて、非常に光栄で嬉しく思いました。ホームステイも、ホストファミリーの方々に非常によくして頂き、新しい家族ができて本当に嬉しく思います。今後も今回築いた日本との関係を大切にしていきたいとします。

5．受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校関係者（拓殖大学）

日本理解講義では、予想以上に様々な回答が寄せられ、またグループ・スポークス・パースンの見事な意見集約ぶりに感心しました。本学の設立者が不平等条約改正を成し遂げ日本の独立を守ったこと、卒業生がインドネシアの独立に命を懸けたこと、脱亜入欧とともにアジアと共存しようとするアジア民族派の思想を持っていたことなど、少し難しい話をしっかり吸収してもらえたことは今後につながるという感触を得ました。いつの日か、今回の参加者の中から、拓殖大学大学院国際協力学研究科で実施しているインドネシアの地方行政官育成のプログラム(インドネシアの大学との修士課程ダブルディグリープログラム)への参加者が出てきてくれ、パプア州へもつながりができることを期待しています。

ACTION PLAN					
Program	Kegiatan	TUJUAN KEGIATAN	VOLUME KEGIATAN N waktu kegiatan	HASIL YANG DIKAPAI	
1. Mengubah pola pandang Penduduk di Kabupaten Jayapura tentang Jajana	1. Menyebarkan informasi peranan Jepang dalam Pembangunan	Tujuan 1. Memperkenalkan Peranan Jepang dalam Pembangunan 2. Mengubah persepsi masyarakat tentang masa lalu Jepang di Papua 3. Memperkenalkan Pemerintah Jepang dan perannya dalam Pembangunan Berkelanjutan 4. Menyampaikan informasi tentang penanaman di Jajana	Seminar, Penyebaran Informasi lewat Media Sosial Seminar, Penyebaran Informasi lewat Media Sosial Seminar, Penyebaran Informasi lewat Media Sosial Seminar, Penyebaran Informasi lewat Media Sosial	6 6 6 6	Orang Tua Siswa, Warga masyarakat Sekitar lingkungan Sekolah, Siswa CBT dan Dinas Pendidikan Kab. Jayapura (Masukan jumlah Orang Tua Siswa dan jumlah siswa) Orang Tua Siswa, Warga masyarakat Sekitar lingkungan Sekolah, Siswa CBT dan Dinas Pendidikan Kab. Jayapura (Masukan jumlah Orang Tua Siswa dan jumlah siswa) Orang Tua Siswa, Warga masyarakat Sekitar lingkungan Sekolah, Siswa CBT dan Dinas Pendidikan Kab. Jayapura (Masukan jumlah Orang Tua Siswa dan jumlah siswa) Orang Tua Siswa, Warga masyarakat Sekitar lingkungan Sekolah, Siswa CBT dan Dinas Pendidikan Kab. Jayapura (Masukan jumlah Orang Tua Siswa dan jumlah siswa)
2. Memperkenalkan Rencana Perawatan Ekos berbasis lahan (Gas Rumah Kaca) Kabupaten Jayapura dengan pendekatan Pemertahanan Budaya Tradisional	1. Menyebarkan informasi Perangai Geramah Kaka dan Strategi daerah mengenai pemertahanan Tradisi	1. Meningkatkan Pemahaman Siswa dan Masyarakat tentang perubahan iklim dan Dampak Yang ditimbulkannya. 2. Meningkatkan pengetahuan Partisipasi kepada masyarakat di 5 kampung, terutama Peringatan Hari Bumi Pemertahanan Perubahan Iklim 3. Membangun Komitmen antara Masyarakat dengan Sekolah Untuk Kegiatan reboisasi bersama 4. Reboisasi lahan seluas 5 Ha Penanaman 1000 Pokok Pada lahan kritis dan tepian sungai	permatuan video, (Diklat) (FGD) permatuan video, (Diklat) (FGD) Nota Kesepakatan/MSd Penanaman Pokok	3 8 5 3	Siswa dapat Menosialisasikan Informasi Perawatan Iklim kepada Komunitas di lingkungan di luar Sekolah (Sekolah Minggu, PAM, PKK dan PW) Permatuan di 5 kampung dapat Memunculkan rencana Penanaman (reboisasi) di lahan terbelah kemudian Rencana Pembangunan Kampung (RPIMK) Adanya Kesepakatan antara Kampung dan Sekolah tentang lahan yang akan ditanam, Luas lahan dan Keterlibatan stakeholder di lingkungan Kampung (Elementer hingga SMP, Adat, Agama, Kelompok Pemuda) Implementasi Model dalam kegiatan reboisasi yang dilakukan bersama Masyarakat dan Sekolah

1. ジャバブラ県の地域住民の日本に対する考え方を変えるため、パプア州の開発における日本の役割の重要性を紹介します。

2. 伝統的生態系アプローチによる温室効果ガス削減計画を紹介するため、温室効果ガスがもたらす影響と、その問題解決に関する地域の戦略について紹介し、また、平地や川岸の危険度の高い地域 5 ヘクタールに 1,000 本の植林活動を行います。こうした活動は、学校の保護者、周辺の地域住民、キリスト教会の教区の集まり、県教育部を対象に、セミナー開催、ソーシャルメディアを通じた発信、ビデオ上映、グループディスカッション、MOU 締結などを通して実施します。